

市町村政研修会の発表概要

第3～5回庄内南部地区合併協議会研修会における 「市町村政の現状と方針について」助役発表より

鶴岡市

新市への提言

「グローバルizmと少子高齢化への適切な対応で、夢と希望の持てる将来展望を描きチャレンジ」

1 知的資源の高度な展開

- (1) 教育研究機能を知的資源として未来型、特にバイオ関係の産業と働く場の創造
高等教育機関、地域との連携強化による知的戦略拠点の形成
高度な研究開発型産業の拠点整備
産業の内発的高度化、新産業の創出
- (2) 既存の地域資源を高度に活用
海洋科学の高度な集積を活かした日本海の科学研究

2 歴史文化における鶴岡らしさの伸長

- (1) 鶴岡独特の風景・景観の構築
鶴岡らしさが伸びていく事業の推進
農林水産業(農山漁村)とともに発展するまちづくりを工夫

3 コミュニティの再構築

- (1) 市民の生活を市民自身が支えるシステムづくりを通じて、温かくて生き生きした日常レベルでの地域コミュニティを再構築
住民の暮らしに密着したソフト・ハードの基盤整備

藤島町

新市への提言

- 1 「サテライト方式」による分権型行政組織の構築
- 2 農業を核とし、資源環境型社会づくりをまちづくりの基本として、庄内南部地区の農業政策の中心的な役割を担う

新市へのビジョンの提案

- 1 庄内全体の発展を目指す
- 2 庄内全体の発展が藤島町のまちづくりにとって成功の基

羽黒町

新市への提言

- 1 基調テーマ 「田園観光文化都市づくり」
- 2 キーワード 「グローバルな視点とローカルな行動」
- 3 共通のテーマ
 - ・心身の安らぎ ・資源活用と活性化 ・交流による発展資源活用と活性化
- 4 めざすまちづくりの目標
 - 安心安全な食材を生産し、活力ある田園都市
 - 遊学・創造し、発見・ぬくもりある観光都市
 - 伝統・歴史を保全継承し、誇りある文化都市
 - 自然と共生し、環境にやさしい循環型社会
 - ともに心身健やかに過ごせる農村福祉型社会
 - 家庭・地域の絆、たくましく夢育み型社会
- 5 活用すべき地域資源
 - 月山旧登拝道、荒沢寺、出羽三山の例大祭、精進料理、宿坊、月山高原、
 - 松ヶ岡開墾場、羽黒高校、休暇村はぐろ、今井美術館、温泉
- 6 新市のまちづくりに対する期待、役割
 - 地域イメージの向上 ビックプロジェクトへの対応
 - グローバルな考えで、ローカルな行動
 - 米を補完しての複合部門拡大の役割 教育学習面での役割
 - 広域観光（国際観光）面での拠点の役割

櫛引町

新市への提言

- 1 フルーツタウンの推進によるまちづくり
 - ・農産物直売施設「産直あぐり」等
- 2 グリーン・ツーリズムの推進による中山間地域の活性化
 - ・滞在型宿泊施設「ふるさとむら宝谷」「ほのかたらのき代」
- 3 通年観光推進によるまちづくり
 - ・温泉、スキー場、黒川能伝習館、清正公等
- 4 都市農村交流の推進による交流人口の拡大
 - ・首都圏櫛引会、関西櫛引会、宮城櫛引会等
- 5 歴史、伝統文化の保存伝承・遺蹟顕彰によるまちづくり
 - ・国の重要無形民俗文化財「黒川能」「丸岡城・清正公」
- 6 住民参加によるまちづくりとコミュニティの形成
 - ・集落自治振興と生涯学習の推進
- 7 地域情報化ネットワーク事業の推進
 - ・新世代ケーブルテレビ・地域イントラネット等

三川町

新市への提言

- 1 地域特性を活かした「人」と「自然」が共生するまちづくり
- 2 地域が自立できる経済基盤の充実を目指した、生産、物流などの基盤づくり
- 3 地域の均衡ある発展と交流拠点の整備による交流の促進
- 4 個性的で魅力ある地域の形成のための地域コミュニティの活性化

三川町の位置付けと役割

- ・ 庄内中央拠点地区の設定
 - ・ 交通アクセスの利便性
- 1 庄内中央拠点地区の推進
 - 2 広域的交流拠点の形成
 - 3 産業業務拠点(農工団地)の整備
 - 4 地域資源の活用(農業振興、いろり火の里など)

朝日村

新市への提言

- 1 水源の村として、自然を保護しきれいな水・空気を提供
- 2 自然景観を守り、憩いの場、癒しの場を提供
- 3 豊かな自然をベースにした安心・安全な農林産物の生産・提供
- 4 自然のもつ教育の場を提供
- 5 住みたくなる住環境の提供

地域特性を活かす提言

- 1 広大な中山間地、恵まれた自然の活用
 - 産業振興
 - 観光振興
- 2 豪雪の村「克雪、利雪」対策
 - 完全除雪と克雪タウン計画の推進
 - 雪室の有効活用
- 3 他地域との距離の克服
 - 道路・交通網の整備
 - 情報・通信体系の整備

温海町

新市への提言

テーマ 「温もりのある活性と共生」

「真の交流社会の実現」

地域特性を活かす提言

1 山漁村資源の活用

- ・ 豊かな食材を活用した地産地消の推進
- ・ 生産分野の分担と効率的、安定的な供給
- ・ 地域資源を活用した戦略的な産業化

2 癒しと安らぎの空間づくり

- ・ 景観を意識した歩いて楽しいまちづくり
- ・ 山、海、温泉など自然を活用した保養

3 集落コミュニティの活性化

- ・ 負担の適正化と自立性の確保
- ・ 役割の整理と運営手法の検討
- ・ 地縁の結びつきと活力の維持

総合的なまちづくりへの提言

資源の共有化と機能の分担

- ・ 各市町村の役割の明確化と有機的な連携
- ・ 得意分野でポテンシャルを最大限に発揮
- ・ 地域基盤の安定と新たな展開